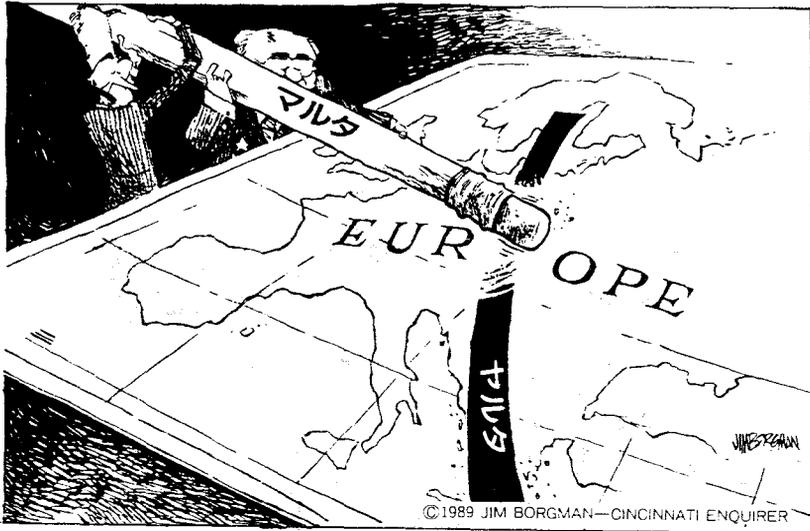


月刊反トマホーク通信

No. 50
89.12.20
定価 100円

〒150 東京都渋谷区渋谷2-5-9 パル青山1502 トマ喰い虫社 ☎03(498)6095 044(63)5101 FAX.044(63)9907
郵便振替 東京6-136148

次号 (No. 51) から紙名が「月刊トマ喰い虫」にかわります!



ヤルタからマルタへ
太平洋に軍縮の新時代を!

- タイコンロガ元乗組員の証言
- 海の上に弾薬庫!?—呉から
- アメリカ西海岸の旅

タイコンデロガ号事件に関する 全国非核自治体アンケート調査

●1月中旬にアンケートを送り、2月中に集約、3月末発表のスケジュールで動き始めました。●郵送や集約のためどうしても林間仕事の出来る人が必要です。どなたかやってみようという人はいませんか? ●お住まいの自治体に回答を促すことなど、読者のみなさんのご協力を募ります。ご連絡ください。●カンパもよろしく!

トマホークの配備を許すな! 全国運動

●維持会員 (月間会費)

団体 1口 2000円
個人 1口 1000円

●参加会員 (月間会費)

団体 1口 1000円
個人 1口 500円

●通信会員

年間 1口
2000円

あなたも仲間! (会費は本誌購読料を含みます)

冷戦終結

大きく変わろうとしている世界 変わろうとしない日本

だから、私たちは…

十二月三日、米ソ首脳は地中海マルタで、冷戦の時代が終り、新たな時代に入ったことを宣言した。さらに欧州通常戦力交渉(CFE)と戦略兵器削減条約(S.T.A.R.T.)の二つの軍縮交渉を来年中に合意することなどが確認された。

戦後四十五年間、ヨーロッパをそして世界を支配していた、憎悪と猜疑心と恐怖のシステムが、今音をたてて崩れようとしている。全ヨーロッパの市民たちに「やったね。おめでとう」と言いたい。もうどうにもならない財政危機など、二大国それぞれに「動機」はあっただろう。しかし、八十年代初め、INF(中距離核戦力)の配備に反対して街頭を埋め尽くした平和運動の嵐、そして今年東ヨーロッパ各地で堰を切ったように噴き出した民主化の闘いがなかったとしたら、この「転機」はこんなに早く、劇的に訪れはしなかっただろう。「草の根」こそが時代を切り開いたのだ。

● ● ●
今度のアジア・太平洋の番だ。私たちの出

番だ。巡航ミサイルなどの海洋核は「マルタ」でも会談のテーブルには乗せられなかった。中南米で、フィリピンで解放と自立を求める人々は今日も傷付き、倒れている。大国による自然破壊と飢餓が第三世界の人々の生存を根底から脅かしている。

そして、問題は「日本」だ。米ソが軍事費の大幅削減に踏み切った今も、「ソ連の脅威」にしがみついて軍拡を止めようとする日本は、それどころか、米国の軍事負担を肩代わりして冷戦の「最後のチャンピオン」になろうとしている。アジア・太平洋の軍縮のために最大のイニシアティブを発揮するべきはずなのに、しようともせず、またまたトマホークの母港提供だ…

世界の人々は尋ねるだろう。「日本(人)は一体どうするのですか?」。この問いかけに耳をかさず、有り余る「物」に囲まれてのうとうとその日を暮らすばかりなら、それは人類に対する裏切りでさえあるだろう。

「マルタ」をつくり出したのが、草の根の民衆パワーであったのと同じく、日本をアジア・太平洋を変えるのは私たちの行動だ。風は追い風。帆を一杯に広げて、新しい時代へのビジョンを描き、船出しよう! 九十年代を二十一世紀への希望を育む時代にしよう!
(田巻一彦・編集部)

私は

タイコンデロガ元乗組員の証言

水爆が沈んでいくのを見た



模型を指して事故の状況を細かく再現したウィリアム・レーンさん(右端) = 横浜開港記念会館で

約五〇〇人の市民で埋まった。レーン氏は一九四五年生まれ。六四年から四年半海軍に従軍、タイコンデロガには六五年九月から翌年五月まで一等水兵として乗艦していた。現在はカリフォルニアで電話会社に勤務している。

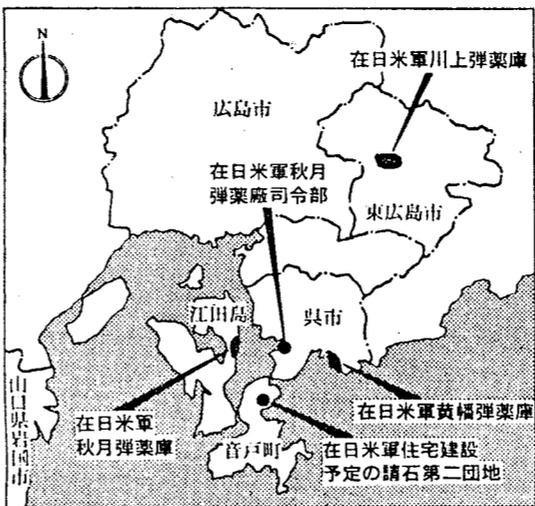
事故は十二月五日核爆弾搭載訓練中に起こった。「核弾薬庫から核爆弾を運び上げ、ハンガー・デッキ(格納甲板)で攻撃機に取り付け、エレベーターで飛行甲板に上げて発進体制をとる。それを繰り返す訓練だった。私は、事故が起きた第二エレベーターから約三十メートルの所に立って、核爆弾のカート(運搬車)を見張る任務に付いていた」。レーン氏はステージに置かれたタイコンデロガ模型を示しながら証言した。

艦長は電話で飛行中隊長に核爆発の可能性を聞いてきた。中隊長が兵器担当士官に聞く「ノー」と手を振って答えた」。レーン氏は水没した爆弾が核爆弾であると確信する理由として、訓練中爆弾が海兵隊員による厳しい監視下に置かれていたことをあげた。通常爆弾ではありえないことだという。タイコンデロガには「少なくとも三十から五十発の核爆弾が積まれていたと思う」とも証言した。

一九六五年十二月五日、空母タイコンデロガで起こった水爆水没事故を目撃した元乗組員ウィリアム・レーン氏が十一月末来日、東京・札幌・横浜で各地弁護士会の主催する集會に出席、事故の模様を生々しく証言した。このうち十二月一日横浜で開かれた集會は「非核三原則と情報公開」と題され、会場は

事故後横須賀に直行したことも間違いない。レーン氏は上陸後東京に観光に出かけ、絵葉書を書いた。艦内便で母親にあてて出したその絵葉書には「六五年十二月十六日タイコンデロガ」のスタンプが押されている。その日付はタイコンデロガが横須賀を発ってベトナム(七ページ中段へ)

弾薬海上保管 で揺れる呉



この秋、呉は米軍秋月弾薬庫の弾薬を海上で仮保管するという計画で揺れ続けている。この計画が明るみに出たのは十月二十一日の「中国新聞」の報道によってである。八月末、秋月弾薬庫から呉海上保安本部に対し、非公式に「来年一月弾薬輸送船が入り、ドック入りするため、呉湾の真ん中で弾薬をしばらく保管したいが、船舶の航行上いかななものかと打診してきたというのである。

このニュースを見て私たちはいち早く二十四日、海上保安部、呉市、秋月弾薬庫と計画の白紙撤回を求めて、一日に三ヶ所を精力的に回った。秋月では日本人の警備兵が「文書も受け取れない」と頑なで、ゲートの中の詰め所で押し問答。ごうを煮やして一人が本館の入り口まで走り、緊張の一瞬もあった。

その後、県平和委員会、原水禁。そして県漁連や関係漁協が、県などに相次いで反対の申し入れ。私たちも執拗に申し入れを繰り返した。この間マスコミ報道はいつになく派手で、全国版にも何回か記事になっている。そして十一月二十二日、県と呉市はやっと重い腰を上げ、外務省に対し実状調査と善処を求めた。このころから公明党も反対の姿勢を打ち出し、県議などで構成する対策委員会を設置している。

ピースリンクでは自分たちだけの運動にな

らないよう配慮しつつ、十一月末署名運動を始め、まず二十六日には呉市中通りで、十五人が出て街頭署名を開始。二時間弱で三〇八人の署名が集まった。市民の反応はいつもとくらべ数段よく、参加者は皆、運動の手応えを実感した。これは相当集まるぞ。そんな実感と自信を持って十二月を頑張ろうといっているところへ、なにやら朗報がとどいた。

十二月四日、代表三人で外務省、米国大使館への申し入れを行った。そこでは両者から期せずして「報道されているような具体的な計画はありません」と同じ回答が返ってきた。しかし、そういわれても簡単に信じることはできず、様子を見ようと思っていたところ、六日になって県知事、呉市長などが外務省を訪れ、有賀北米局長から「計画はないときいて聞かされてほぼ潰れたという雰囲気が出た」と聞かされた。

ところが、それもぬか喜びで、十二月十二日の「中国新聞」が「今度は基地の提供水域の中で行う」のではないかと報道をして、再び火が付いてしまった。折しも議会の開会中で、社共公などがしつこく質問しており、私たちも十五日からの申し入れを精力的に行っていく予定である。

事態はまだ進行中で予断を許さないが、この運動で訴えたいことは基地周辺住民には計

画も一切知らされないことに示されるように、自己決定権を持っていないことである。生活、生存権にかかわることでも、軍事機密の一言で無視されてしまう現実。これを訴えたかった。それはひいては安保の差別条約としての本質を住民として浮き彫りにしていく具体的な過程となり得ることを意味している。この年末、まだまだ海上保管を止めるために奔走せねばならないようようだ。

（湯浅一郎 トマホークの配備を許すな！呉市民の会）

メモ

●米軍が当初弾薬仮保管を計画していた海域は呉港の中で最も交通量が多く、一日約百十隻のフェリーや高速艇が航行する航路から約五百メートルの位置であり、イワシやカレイの好漁場でもある。

●十月二十六日の「中国新聞」は、たんに一時的な仮保管ではなく、輸送船入港の都度ほぼ恒久的に使用する計画であるとも報じた。

●秋月弾薬庫は米陸軍第八三兵器大隊が駐留、あらゆる種類の通常弾薬を九万トン以上貯蔵可能な太平洋地域で最大の施設。空軍用弾薬も約七百トン貯蔵されている。

◆短信 各地から

●鹿児島 今年核疑惑艦五隻が入港

十一月三日、フランスの核疑惑艦デュプレックスが入港した鹿児島港に、同艦以外にも四隻の核疑惑艦が入港していたことが「今、鹿児島島で何ができるかを考える会（毛利淳二世話人）」の調査でわかった。四艦は二月七日入港した米フリゲート艦ウォレット、ヘッパバン、カーツと十一月十五日に入港した同じく米フリゲート艦ロバート・E・ペアリーである。県国際交流課や港湾課などに問い合わせたもので、「ジェーン海軍年鑑」によればいずれも核・非核両用可能な対潜兵器「アスロック」を積んでいた疑いが強い。同会ではまた八四年に二隻、八六年一隻、八七年二隻の核疑惑艦の入港をつかんだ。調査結果は十二月八日「鹿児島県憲法を守る会」主催の集会の席上で発表され、地元紙に大きく取り上げられた。

●舞鶴

市議会対潜ヘリ基地の建設容認を決議

舞鶴市議会は十一月二十一日の臨時本会議で、海上自衛隊の対潜ヘリ基地建設問題で同議会が一九六六年に行っていた反対決議の見直しを図る決議案を賛成多数で決議、建設計画を容認した。防衛庁の計画では、同基地は一九九三年度に完成し、現在佐世保にいるヘリ搭載護衛艦「はるな」が舞鶴に移る。市民は「現在の議員はヘリ基地建設について市民の洗礼を受けていない」と強く反発している。「ガイドライン安保破棄十一・二七京都集会」は抗議文を市長らにあて送った。

●東京

「非核東京都宣言」百万人 請願署名がスタート

超党派の各界の著名人が呼びかけ人に名を連ね、十二月八日請願署名運動が始まった。核兵器の製造、貯蔵、海域を含めた持ち込み、他、核燃料サイクルに関連する一切の設備の設置、学術・医療用を除く核物質の搬入、通過を禁止する内容（次号で詳報）。



アメリカ西海岸の旅(II)

「アメリカの湖」に面する基地群

その1

梅林宏道

「基地はからっぽだよ。」

九月十日に、ブレマートン(ワシントン州)にあるアメリカ太平洋沿岸第二の海軍基地ピュージェット湾海軍造船所(PSNS)を訪れたとき、案内してくれたチャリー・メコニスさん(「世界安全保障研究所」所長)は思わぬそう言った。原子力空母ニミッツが長期修理のためにドック入りしていた。しかし、彼によれば、そこに見られるべき他のほとんどの船の姿はなかった。

史上空前の規模の多国間軍事演習「太平洋演習(PACEX)」が始まったばかりであった。

九月二十一日、サンジェゴ(カリフォルニア州)を訪れたときも、同じような説明があった。西海岸最大のこの海軍基地には、私が見る限り、圧倒されるような数の軍艦が浮かんでいて。しかし、サンジェゴ平和資料セン

ターのキャロル・ジャーンコウさんは、「こんなものではない」と語った。たしかに、ここを母港にしている三隻の空母のうち二隻は出払っていた。それらに随伴する多くの主要艦の姿は見えなかった。

私がロングビーチ基地を訪れた数日前には、戦艦ニュージャージーと戦艦ミズーリの二隻の巨艦が、前後して出港したばかりであった。サンフランシスコ湾のアラメダ海軍航空基地では、そこを母港とする空母エンタープライズが修理中であることを目撃したが、数日後には出港した。

その後一ヶ月の間に、私が西海岸で見たり一足ちがいで見ることができなかった、これらほとんどの軍艦が日本周辺に姿を見せた。

このように、私は、PACEX大演習の真只中に、太平洋の両岸で米軍の活動を目撃すると言った稀有な経験をもつ結果となった。太平

(三ページから)

ム海域に再び向かった日である。

「目の前で一人の人間が死んだ。彼の氏を無駄にしないためにも真実を語らなければならぬ」と思った」とレーン氏は語った。

日本から直接 作戦行動に

「事前協議」もう
ひとつのウソ

日本政府は依然としてシラを切り続けている。十一月九日の参議院外交委員会での社会党矢田部議員の追及に対して、外務省は米国のどの様な形で「照会」しているのかについてさえ、「外交上の理由」をタテに公表を拒否した。なんとという民主主義の無視、主権者に対する愚弄だろうか。

さらに加えて、「事前協議」をめぐるもう一つのウソも暴き出された。横須賀を出港した十二月十六日の航海日誌には「ベトナム共和国海岸沖の特殊作戦海域に向かって出港中」とはつきり書かれている。日米安保条約によって「日本防衛以外の作戦行動による日本の基地の使用」は事前協議の対象とされて

洋は文字通り「アメリカの湖(アメリカン・レイク)」であり、日本はその湖の中にあつた。これほど太平洋が狭く、騒々しく感じられたことはなかった。

I(十月号)で書いたように、シアトル、サンフランシスコ、サンジェゴを拠点に二十に及ぶ基地を見た。費やした時間はさまざまであったが、おそらくアメリカの運動家もあまり試みたことがないような旅であった。各地で世話になった人々に心から感謝したい。

シアトル周辺

会議を終えた翌日にまず訪問したのが、日本でも何度も名前に接していたブレマートンとそこにあるピュージェット湾海軍造船所(PSNS)であった。

いるのだから、「横須賀出港」も事前協議の対象となることは明白である。十二月四日の参議院外務委員会での矢田部議員のこの点についての追及に対して外務省は「(それだけでは)出港時にすでに戦闘作戦行動に従事したとは認定できない」と述べ、事前協議の対象にはならないとの見解を示した。

タイコンデロガ事件はたんに「核持ち込み疑惑」にとどまらず冷戦下の日本の戦後政治と民主主義の根幹にかかわる問題なのである。(田巻一彦)

訂正

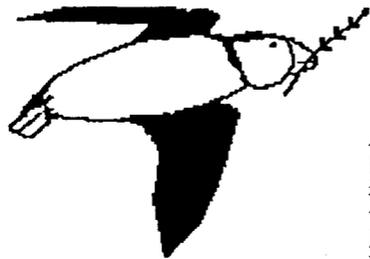
前号(第四十九号)に以下の誤りがありましたので訂正します。

「表紙」

第(空白)回全国会議の報告↓第十一回

「6ページ」見出し

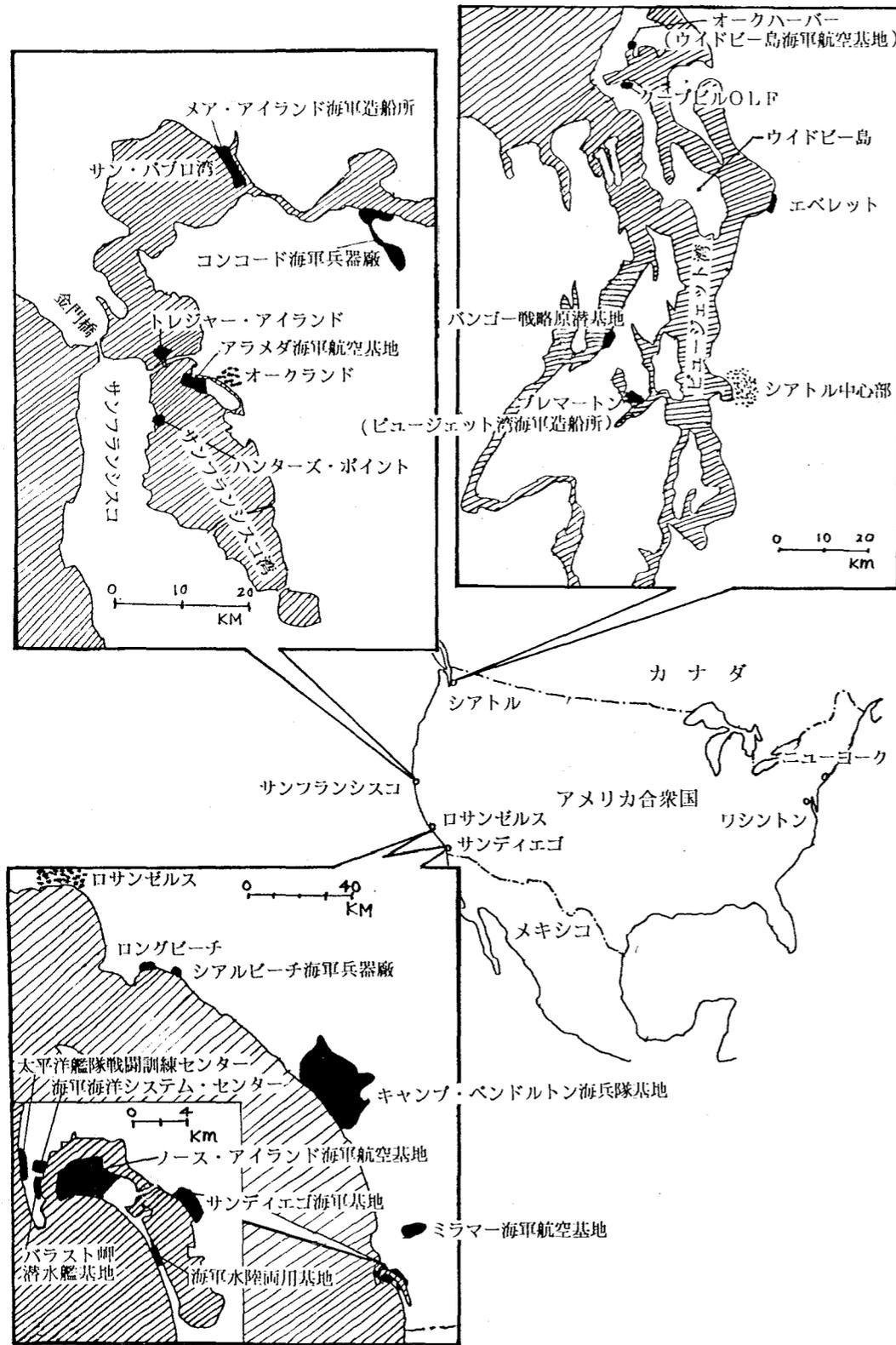
第十二回全国会議↓第十一回



フェリーでブレマートンに着いた時の第一印象は、さびれつつある工業港という印象であった。海軍のみが産業であるブレマートンは、この瞬間、アメリカの財政難の影響を直に受けていたはずである。日曜日で労働者が居なかったため、そのことが一層強く感じられた。

しかし、四隻の退役した空母が並んでいる光景を見たとき、言いようのない全くちがった感情にとらわれた。エセックス級の空母と云うことであるから四万トンから五万トン級の巨艦である。それが灰色の巨体を並べている。一隻だけでも、空母を至近距離でみたときの威圧感は強烈である。それが四隻並んでいる「空母の墓場」の光景は、アメリカ海軍のスケールとその全体像を彷彿とさせるに充分であった。退役しているとは言え、それらはすぐにも使えるように見うけられた。おなじエセックス級であった空母タイコンデロガがないだろうか、と咄嗟に考えた。C・メコニスを持つてきたハンドブックを調べて、「もうスクラップされている」と答えた。

PSNSは大きい。原子力艦のオーバールール、潜水艦の修理基地としてアメリカ海軍有数の施設である。世界最大の原子力空母ニミッツの現在の母港でもある。一九九一年には開設百周年を迎える。トマホークを装



備して復役するために工事に入る一九八四年まで、戦艦ミズーリはここに係留され、見学にくる市民が後を絶たなかった。

C・メコニスが子供の頃、サンフランシスコから家族連れで北部の山にピクニックに行った。そのとき、戦艦ミズーリを見るために初めてブレマートンにきた。少年メコニスは山に行くのも忘れて、感動して軍艦で時を過ごしたそうである。二十年后、バンゴ-（地図参照）で戦略原潜基地を建設するのに反対する非暴力直接行動で逮捕されたためメコニスは、ブレマートンに連行された。「ここを船に乗せられて行って、あそこで尋問された」と指さしながら彼は、一見静かな基地の背後にあるドラマを語った。

シアトルからブレマートンに行った基地見学旅行は一日がかりの旅であった。日程からの理由と陸地からの見学ではほとんど何も見えないという理由で、バンゴ-基地の見学はあきらめることになった。その代わり、メコニスは、かれの書斎から美しいカラー写真の大版の本をとり出して、丁寧にバンゴ-の説明をしてくれた。

「沈黙の追跡」(サイレント・チェイス、一九八九年)と題するその本には、基地の中心地域のパノラマ写真や衛星から見えないようにミサイルを原潜に装置するための「爆発

物取り扱い埠頭」の写真など、興味深い写真が多く含まれている。彼の勧めによって、その写真集を一冊持ち返った。

シアトル周辺では、他にエベレット、ウイドビー島海軍航空基地を訪れ、そこで闘っている人々と会った。エベレットは空母ニミッツ以下十数隻の新母港に指定された港であったが、NEPA(国家環境政策法)裁判で半ば勝利している。ウイドビー島では、厚木基地と同じような(人口密度は全く違うが)騒音に対する闘いをやはりNEPAを拠り所にして闘っている。これらについては、基地と環境をテーマにする冊で紹介したい。

サンフランシスコ周辺

サンフランシスコ湾が重要な軍事基地であることは余り知られていない。戦艦ミズーリのサンフランシスコ母港計画が市民の精力的な反対でついに阻止されたが、サンフランシスコには、すでに原子力空母エンタープライズとカールビンソン、原子力巡洋艦アーカンサス、テキサス、カリフォルニア(以上すべてアラメダ海軍航空基地が母港)、二隻の原子力潜水艦(メア・アイランド海軍造船所)などが母港とされている。太平洋艦隊精鋭の空母機動部隊基地がサンフランシスコ湾にあると言っても過言ではない。

サンフランシスコ地帯で上段が下段に落ち込んで不通となった、あのベイブリッジの真中にトレジャー・アイランドがある。そこが、私たちが第一に訪れた海軍基地であった。戦艦ミズーリの母港化計画では、ハンターズ・ポイント(地図参照)とセットにして母港の対象と考えられていた港である。

トレジャー・アイランドには、サンフランシスコ湾地域海軍司令部があり、その事務所の建物の一翼が海軍博物館になっている。博物館に入ったが、その正面の天上に近い壁に描かれた壁画は凄まじいものであった。朝鮮戦争―ベトナム戦争―中東戦争が太平洋艦隊の歴史を称える調子で壁一杯に描かれていた。サン・ノゼに住む鄭民(ジョン・ミン)という在米韓国人がサンフランシスコでの基地案内役であった。YKU(青年韓国人総連合)の副議長であり、今年七月の朝鮮半島南北平和行進を組織した中心人物の一人であった。固い意志を持つ温厚な物理学者で、今はコンピュータ畑の仕事をしている。その彼が、壁画を見ながら「ゼア・パースペクティブ(彼らの史観だ)」とつぶやいた一言が今も耳を離れない。

(この項つづく) ◆◆

次号から紙名が変わります。

新紙名は

月刊 **トマ喰い虫**

中味もさらに充実させるよう頑張りますのでよろしくお願ひします。おたより、投稿、情報提供いつでも大歓迎です。それでは皆さま、よいお年を!(編)



ふたたび**カンパ**のお願い

- 前号でお願いした、非核自治体アンケート調査のためのカンパにさっそくご協力いただきありがとうございます。ところが「会計報告」にありますように目標の50万円にはまだ遠くおよばぬ現状です。約1300の自治体を対象とするので1回の郵送だけで10万円近くがかかってしまいます。なおいっそうのご協力をお願いいたします。
- 振替用紙に「アンケート調査」とご明記下さい。

会計報告

(89.10.29~12.14)

[収入]

○前月からの繰越	△111,094
経常繰越	132,906
借入金繰越	△250,000
○今月の収入	308,940
会費収入	139,000
内	
維持団体	0
維持個人	62,000
訳	
参加団体	0
参加個人	13,500
通信会員	63,500
カンパ収入	78,150
行動収入	930
資料収入	25,160
反核ホットライン収入	4,700
アンケート調査収入*	61,000

[支出]

●今月の支出	△206,297
家賃(12月分)	50,000
水道光熱費	13,134
電話代	27,035
郵送費	48,036
文具代	0
印刷費	21,896
行動費	42,036
資料経費	0
反核ホットライン経費	0
アンケート調査経費	0
郵便振替等手数料	4,160
●次月への繰越	△14,451
経常繰越	235,549
借入金繰越	△250,000

*「全国非核自治体アンケート調査」のカンパ収入と経費です。

月刊反トマホーク通信 第五十号
 一九八九年十二月二十日発行(通巻五十一号)
 *発行 トマホークの配備を許すな! 全国運動
 〒一五〇 東京都渋谷区渋谷一丁目五十九
 パル青山五〇二 トマ喰い虫社
 ☎〇三(四九八)六〇九五
 ○四四(六三)五一〇一
 FAX〇四四(六三)九九〇七
 郵便振替 東京六一三六一四八
 *編集 反トマホーク通信編集委員会
 *定価 一〇〇円(通信会員年間二〇〇〇円)

求ム! スタッフ、助っ人

●編集から印刷、発送まで「反トマ通信」はすべて手作りです。ミニコミ作りに興味ある人、平和運動の新しい情報に触れてみたい人、イラストやデザインをやってみたい人、とにかく何かやってみようと思ってるあなた! 大歓迎します。

●発送を手伝ってくれませんか? 毎月20日直後の日曜日、トマ喰い虫社分室(東横線日吉駅下車車044-63-5101)で。次回は

1月21日(日)午後2時から。

★新年会のご案内
 1月6日(土)午後5時から分室で。